

モンゴル

モンゴル経済は引き続き拡大を継続しているが、その速度は低下しつつある。通貨の急激な減価と、貿易及び海外からの直接投資の縮小について懸念が示されている。急速に減価する通貨は、消費財及び生産材料の大部分を輸入するモンゴルにとって、インフレスパイラル引き金となる危険性がある。

マクロ経済指標

2013年第3四半期の鉱工業生産額は、銅精鉱、原油、石炭、金などの主要鉱産品の生産増加により、前年同期比22.4%増となった。この結果、1～9月期の鉱工業生産額は前年同期比11.5%増、その内鉱業は同16.6%増となった。金の生産額は前年同期比68%増、銅精鉱は同39%増となった。一方で石炭の生産額は第3四半期に前年同期を上回ったものの、それまでの2四半期の生産減により、1～9月期は前年同期比3.5%の減少となった。これは輸出価格の下落と輸出数量の減少によるものである。効率的なインフラが未整備のため、モンゴルの石炭産業は国際価格の動向に強く影響を受ける。価格が下落するとき、生産者には収益を維持するために生産コストを調整する手段がなく、生産量を維持せざるを得ない。同時期に製造業の生産額は4.5%、公益事業の生産額は5.3%、それぞれ増加している。

2013年9月末の登録失業者数は、鉱業、建設業、道路及び観光業の季節雇用の増加により、6月末の41,700人から37,600人に減少した。労働省によれば失業者の30%は大卒以上の学歴で、63%は15～34歳の年齢である。これはモンゴルにおける労働供給と需要のミスマッチを示している。

2013年第3四半期の消費者物価上昇率は一ケタに止まり、前年同期比9.3%であった。しかし、1～9月期の上昇率は前年同期比10.1%であった。部門別に見ると、通信・郵便サービス以外のすべての品目が上昇している。

対米ドル為替レートは急速な減価を続けており、2013年第3四半期の平均レートは1ドル=1,559トゥグルグであった。9月には同1,662トゥグルグとさらに減価し、前年同期から20%の減価となった。こうした減価はモンゴル経済の外国貿易への高い依存により、貿易赤字の拡大を生じさせている。

2013年1～9月期の国家財政収支は1,310億トゥグルグの赤字となった。これは前年同期を76%下回っている。財政収入は前年同期を12.5%上回り、財政支出は前年同期を0.6%上回った。予算収入とは別に380億トゥグルグが安定化基

金に積み立てられた。これは前年同期を48%上回っている。財政収入の増加は、財・サービスに対する税収、所得税収、社会保障負担の増加によるものである。一方で純融資は前年同期の2.3倍となり、債務額は前年同期を52%上回った。財・サービスへの支出は前年同期を18%上回った。しかし財政支出全体の半分以上を占める資本支出と補助金・交付金が前年同期を下回ったので、全体の伸び率は抑えられた。

通貨及び金融

2013年9月末の貨幣供給量(M2)は8.5兆トゥグルグ(約57億ドル)で、前年同期を19%上回った。9月末時点で、モンゴル銀行は政策金利を10.5%に維持している。9月末の融資残高は前年同期を24%上回る10.2兆トゥグルグ(約61億ドル)となった。9月末の不良債権比率は5%に止まっているが、金額は前年同期を75%上回っている。

不良債権額2012年から2013年4月まで減少を続けていたが、5月以降は増加に転じている。この傾向はモンゴルの企業活動の状況の悪化を示している。これは50億ドル以上の投資をモンゴルにもたらさずだったオユ・トルゴイ炭鉱プロジェクトの第2フェイズが凍結されたことに起因している。これは100億ドル規模の経済であるモンゴルにとって大きな金額である。モンゴル政府とリオ・ティント社の間のプロジェクトの拡大に関する金融上の意見の不一致により、オユ・トルゴイプロジェクトの第2フェイズは8月から停止されており、13,500人の雇用者のうち1,700人の炭鉱労働者がレイオフされている。リオ・ティント社は世界第二位の鉱山会社で、この炭鉱の66%を所有し、残りをモンゴル政府が所有している。

外国貿易

2013年1～9月期の貿易総額は79億ドルで、前年同期を6.5%下回った。輸出は31億ドルで、前年同期比4.1%減少、輸入も同じく48億ドルで、同8%減少した。輸出減少の主な原因は、主要輸出品である石炭の輸出の減少である。2013年1～9月期に石炭の輸出額は前年同期比45%低下し、輸出数量は同20%低下した。

輸入の減少は、機械、設備、乗用車、トラックなどの輸入の減少によるものである。これらの品目の輸入額は前年同期比18%減少している。対内直接投資(FDI)を始めとする投資の低下がこの主要原因である。上半期のFDIは前年同期の半分以下となっている。

(ERINA調査研究部主任研究員 Sh. エンクバヤル)

	2010年	2011年	2012年	2012年4Q	2013年1Q	2013年2Q	2013年3Q	2013年1-9月	8月	9月
実質GDP成長率(対前年同期比:%)	6.4	17.5	12.6	10.6	7.2	14.3	—	—	—	—
鉱工業生産額(対前年同期比:%)	10.0	9.7	7.2	9.2	7.1	4.4	22.4	11.5	10.0	31.6
消費者物価上昇率(対前年同期比:%)	13.0	10.2	14.3	14.5	11.4	9.6	9.2	10.1	9.4	9.9
登録失業者(千人)	38.3	57.2	35.8	35.8	35.2	41.7	37.6	37.6	37.2	37.6
対ドル為替レート(トゥグルグ)	1,356	1,244	1,359	1,393	1,397	1,431	1,569	1,466	1,570	1,663
貨幣供給量(M2)の変化(対前年同期比:%)	63	37	19	19	20	14	19	19	20	19
融資残高の変化(対前年同期比:%)	23	73	24	24	28	36	48	48	47	48
不良債権比率(%)	12	6	4	4	4	4	5	5	5	5
貿易収支(百万USドル)	▲ 292	▲ 1,747	▲ 2,354	▲ 340	▲ 396	▲ 651	▲ 681	▲ 1,728	▲ 222	▲ 174
輸出(百万USドル)	2,909	4,780	4,385	1,153	809	1,215	1,074	3,098	350	395
輸入(百万USドル)	3,200	6,527	6,739	1,493	1,205	1,866	1,755	4,825	572	569
国家財政収支(十億トゥグルグ)	2	▲ 632	▲ 1,163	▲ 605	84	▲ 217	2	▲ 131	14	0
国内貨物輸送(百万トンキロ)	12,125	16,337	16,647	4,995	3,015	4,761	3,855	11,630	—	—
国内鉄道貨物輸送(百万トンキロ)	10,287	11,382	12,176	3,081	2,469	3,300	3,270	9,037	1,100	1,038
成畜死亡数(千頭)	10,320	651	429	132	244	395	21	659	—	—

(注) 消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。

(出所) モンゴル国家統計局『モンゴル統計年鑑』、『モンゴル統計月報』各号ほか